

80対20の法則

80対20の法則とは、イタリアの経済学者ビルフレード・パレード氏が提示した法則で、開発者の名前を取って、パレードの法則とも言われています。高校受験、大学受験や資格試験の出題範囲は膨大であり、かつ時間の制約もあるため、全ての出題範囲を完全に理解するのは、余程の天才・秀才でない限り不可能に近いです。そこでこの80対20の法則を知っていると役に立ちます！



この法則を例で説明しますと、例えば、

- ・「世界の富の80%は、20%の者によって支配されている。」
- ・「スーパーの売り上げの80%は、20%の商品によってもたらされている。」
- ・「家のゴミの80%は、床面積20%の場所に集まっている。」

などです。

この法則を受験勉強に当てはめると、

- ・**「試験に出題される80%は、全出題範囲の20%の部分から出題されている。」**

となります。

あくまでも、理論上の話ではありますが、その20%の部分を完璧に勉強していれば、試験で80点が取れるという計算になります。多くの資格試験では、7割もとれば合格できますから、もし仮に20%の部分が分かり、その部分を完璧にしておけば、最小の努力で合格できることとなります。多くの人は、この法則を知らなくとも、知らず知らずのうちに出題範囲の中から出題されやすいポイントを重点的に勉強したり、高校受験、大学受験や資格試験など出題範囲の広い試験では、自分で範囲を絞り込むことは難しいので、高校受験、大学受験・資格試験に携わってきた先生方にポイントを教わったり、そこを重点的に勉強する必要があります。この法則を有効に活用するためのポイントとしては、

① 授業に集中し、先生方の話をよく聞く。

② 過去問題を解き、そして分析する。

※ 過去に出題された問題は、すぐには出題されないとはよく聞きますが、出題されなくともどの試験も一定の出題傾向が存在しますので、その傾向をつかむ為にも過去問は一度はやっておくべきでしょう。

※ 3年生は受験生という意識を高めることも大切です！

さて、来週は1、2年生が中間テスト、3年生は実力テストが行われます。中間テストは範囲が決まっているので100%繰り返し学習をしましょう。3年生は重点を置く20%から学習を広げて行って欲しいです。

故に曰く、

彼を知りて己を知れば、
百戦して殆うからず。

彼を知らずして己を知れば、
一勝一負す。

彼を知らず己を知らざれば、
戦う毎に必ず殆うし。



孫子は言う。

敵情を知って味方の事情も知っていれば百回戦っても危険が無く，敵情を知らないで味方の事情を知っていれば勝ったり負けたりし，敵情を知らず味方の事情も知らないのでは戦うたびに必ず危険になる。

教頭先生がテストにあてはめてみます

教頭は言う。

①テスト範囲の内容を理解して自分の実力も知っていれば百回解いても危険が無く，②テスト範囲の内容を理解しないで自分の実力を知っていれば勝ったり負けたりし，③テスト範囲の内容を理解せず自分の実力も知らないでテストを受けると必ず危険になる。

③にならないようにしましょうね！